

上野公園にある、日本の国宝・重要

文化財が多く収蔵、展示されている「東京国立博物館」。全部で6棟の建物からなる博物館のなかで、「本館」とされるのがこの建物である。

大正12年（1923年）の関東大震災で破損した旧本館に代わり、昭和天皇の即位を記念し、「日本趣味を基調とした東洋式」という条件で設計案を公募して建てられたのが現在の本館だ。

当選したのは、銀座和光や横浜のホテルニューグランドなどを手がけたことで知られる渡辺仁の設計案。それをもとに宮内省内匠寮（ないようりょう）が実施設計をして昭和7年（1932年）に建設に着手、昭和12年に完成した。博物館として開館したのは翌13年だった。

開館時には「復興本館」と呼ばれていただけあって、耐震、耐火構造の建物となっている。

コンクリートの躯体に瓦屋根をのせた建物は、帝冠様式（ていかんようしき）ともいわれる。これは、木造以外の材料・構造を用いた西洋建築でありつつも、その細部あるいは全体に日本および東洋の伝統的モチーフを採用している建築を指す。帝冠様式は、昭和初期に流行し、公共機関の庁舎に多く用いられた。この「本館」は、帝冠様式の代表例ともいわれる。

建物を上から見ると、当時の大型建築ではしばしば用いられた、中庭を2つ設

DATA

名称 東京国立博物館本館
所在地 東京都台東区上野公園13-9
完成 昭和12年
設計者 渡辺 仁

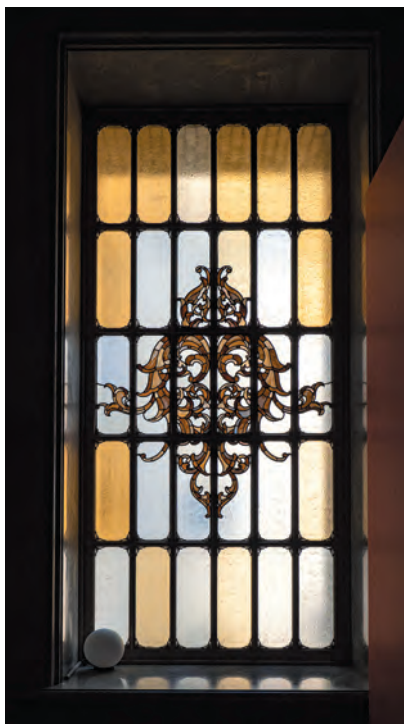


東京のレトロ建築を歩く

第3回

東京国立博物館本館





明かり取り窓にはステンドグラスが使われている



扉には繊細な装飾が施されている



エントランスには大理石の大階段が

けた「日の字」型平面で、正面中央前方に車寄せが張り出している。
正面入口を入って最初に目に入るのが、大理石張りの大階段。吹き抜けになっている天井のガラスと、左右で対になっているステンドグラスから日の光が差し込む。映画やテレビのロケでも数多く使われた場所であり、壮大で厳格な空間となっている。踊り場にある黄金の扉や、その上の大時計が壮大さを演出している。

地上2階、地下2階の建物内は、展示室が回廊型に配置され、数々の美術品、工芸品、歴史資料が展示されている。照明、壁、扉などにも様々な意匠が施されている。

建築物としての優美さ、堅牢性だけでなく、博物館としての機能にも配慮が行



館内には国宝や重要文化財の美術品が並ぶ

き届いている。室内の採光は、展示物の観賞と保護の両面に配慮され、デリケートな美術品のために、展示室内の湿度・温度を最適に保つための設備など、当時の最新の技術が使われている点にも歴史的意義が認められる。

平成13年（2001年）には、「旧東京帝室博物館本館」として、重要文化財に指定された。

隣接する同じく重要文化財に指定されている「表慶館（明治42年（1909年）開館）」も必見。

